



49:23 ダマスコについて。「ハマテとアルパデは恥を見た。悪い知らせを聞いたからだ。彼らは海のように震えおののいて恐れ、静まることもできない。

49:24 ダマスコは弱り、恐怖に捕われ、身を巡らして逃げた。産婦のような苦しみと苦痛に捕えられて。

49:25 いったい、どうして、栄誉の町、わたしの喜びの都は捨てられたのか。

49:26 それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、断滅ぼされる。主の御告げ。

49:27 わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。その火はベン・ハダデの宮殿をなめ尽くす。」

49:28 バビロンの王ネブカデレザルが打ったケダルとハツオルの王国について。主はこう仰せられる。「さあ、ケダルへ攻め上り、東の人々を荒らせ。

49:29 その天幕と羊の群れは奪われ、その幕屋もそのすべての器も、らくだも、運び去られる。人々は彼らに向かって『恐れが回りにある。』と叫ぶ。

49:30 ハツオルの住民よ。逃げよ。遠くへのがれよ。深く潜め。主の御告げ。バビロンの王ネブカデレザルは、あなたがたに対してはかりごとをめぐらし、あなたがたに対してたくらみを設けているからだ。

49:31 さあ、安心して住んでいるのんきな国に攻め上れ。主の御告げ。そこにはとびらもなく、かんぬきもなく、その民は孤立して住んでいる。

49:32 彼らのらくだは獲物に、その家畜の群

れは分捕り物になる。わたしは、こめかみを刈り上げている者たちを四方に吹き散らし、彼らに災難を各方面から来させる。主の御告げ。

49:33 ハツオルはとこしえまでも荒れ果てて、ジャツカルに住みかとなり、そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」

49:34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった主のことは。

49:35 万軍の主はこう仰せられる。「見よ。わたしはエラムの力の源であるその弓を砕く。

49:36 わたしは天の四隅から、四方の風をエラムに來させ、彼らをこの四方の風で吹き散らし、エラムの散らされた者がはいらぬ国はないようにする。

49:37 わたしは、エラムを敵の前におのかせ、そのいのちをねらう者たちの前におのかせ、彼らの上にわざわいを下し、わたしの燃える怒りをその上に下す。主の御告げ。わたしは、彼らのうしろに剣を送って、彼らを絶ち滅ぼす。

49:38 わたしはエラムにわたしの王座を置き、王や首長たちをそこから滅ぼす。主の御告げ。

49:39 しかし、終わりの日になると、わたしはエラムの捕われ人を帰らせる。主の御告げ。」

ダマスコ、ケダル、エラムの滅亡について預言されています。神様のご計画の中にある滅亡ではありませんが、そこには滅亡に至る必然もあるのであります。

「いったい、どうして…」とありますが、そこに要因があります。彼らは滅亡などあり得ないと

思っていたのです。ケダルは牧羊によって豊かであったし、ハツオルは「弓」による武器備えに自信があったのです。これらによって、だいじょうぶと思っていたのですが、それは逆に神に頼らない慢心になっていたのです。

まさに私たちへの警告でもあります。自分はいじょうぶだったはずなのになぜ…とならいうちに、神様に頼り、その御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

